

2019年度 自閉症・発達障害児者支援セミナー

認定NPO法人 みやぎ発達障害サポートネット
〒981-0904 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-20-16

助成事業の概要

「2019年度 自閉症・発達障害児者支援セミナー」全3回の連続セミナーを通して自閉症／発達障害児者が抱える生活上の種々の困難さと適切な支援について学んでいく。講師に各分野の専門家を招き、自閉症／発達障害の基本を学び、様々な視点から基礎理解を深める。周囲の家族や支援者、及び市民がそれぞれの立場からできるアプローチの仕方を学び日常生活に取り入れていくことで、相互理解につながり共に生きていく社会づくりにつなげることを本事業の目的とする。

第1回 2019年9月23日

講師 黄淵熙氏 (東北福祉大学准教授)

「脳のはたらきから発達障害を考える」

第2回 2019年11月17日

講師 本多ふく代氏 (東北文化学園大学 教授)

「感覚特性から発達障害を考える」

第3回 2020年1月19日

講師 笹森史朗氏

「笹森家の楽しい発達障害 ～個性豊かな家族と暮らして～」

事業の成果

セミナー全3回 参加延べ人数 200名
専門家と当事者家族を講師に招き、多くの人に学ぶ機会を提供することができた。特に、会員以外

の市民の参加が33%を占めたことは、本事業の波及効果の高さを伺わせる。発達障害のある本人が生きづらさを一人で抱え込まない土台づくりと、保護者・支援者・市民が理解を深め適切な対応を知ることで、それぞれの立場に応じた支援やサポートの手立てを工夫する一助になったと考える。セミナー終了後に報告書を約460カ所に配布し、発達障害をとりまく環境の改善、向上を目指した啓発活動を進めることができた。

・第1回セミナー／参加者73名／脳機能の視点から学んだ。学習障害、ADHD、自閉症スペクトラムのタイプに分けて、学習の仕方などタイプごとの具体例を交え、すぐに実践できるようなサポートの例を紹介いただいた。疑似体験としてワーキングメモリや認知についての簡易的なテストが行われたことで、理解がさらに深まり、「当事者に寄り添い、支援の手立てを考えたい」といった声も寄せられた。多様性を認め合うことの大切さについても学ぶ機会となった。

・第2回セミナー／参加者57名／作業療法の視点から学んだ。様々な動作（作業）について、体の仕組みや発達の視点から、どこにどのような原因があると上手くいかないのか、特に発達障害児にみられる行動やその背景、それらをふまえたアプローチの仕方について実践例を紹介いただいた。原因や対応策など分析の視点を持つことの大切さも教えられた。作業の負荷を軽減する福祉用具の紹介もあった。

・第3回セミナー／参加者70名／家族の視点から学んだ。父親として、夫として、発達障害のある妻と三人のお子さんとのように暮らしてきたのか話をいただいた。実体験に基づく数々のメッセージから、参加者が発達障害のある家族と生きる上で、また、発達障害のある方と関わる上で、大切な学びを得ることができたのではないかと考える。講師のお子さん一人一人が個性豊かに成長している姿を知ることができ、参加者の多くが勇気づけられ、希望を持つことのできる内容だった。

成果の広報・公表

①報告書による発信／セミナー終了後、実施報告書を600部作成し、会員保護者の他、保育・教育・福祉の関係施設、相談支援機関、児童館、公共施設等460か所に事業の成果を配布した。

②会報誌による発信／会報誌すぽっとにてセミナーの内容や参加者の声を紹介した。

③ブログ「虹っ子広場」、および Facebook による発信／2019年9月26日、11月21日、2020年1月21日に実施内容の報告記事を掲載した。ブログ訪問者数は、一日90～200人。Facebook リーチ数は、1記事80～190人。

セミナーに参加できなかったが本事業に関心を持っていた方、発達障害の理解や支援について関心のある方、子育ての不安を抱える方、発達障害をあまり知らない方々にも、本事業の成果を知らせることができた。様々な視点から発達障害について学び、発達障害のある当事者に寄り添い、アプローチを試みることで、本法人の掲げる「自分を語れる当事者」「歩み寄る市民」「アドボカシーできる職員」の育成と、発達障害のある人と周囲

の人がお互いに理解を深める社会づくりにつながると考える。

今後の展開

本事業のアンケート集計から参加者のニーズを整理し、また、発達障害児者支援に関する地域社会の現状と課題を把握し、次年度以降のセミナー企画内容に反映させる。会員、支援者、広く一般にも参加を呼びかけ、発達障害に関する理解者と支援者のさらなる拡大を図る。参加者の目的意識の向上および効率的な申込み受け付け体制づくりのため、運営システムの再構築を試み、1回100名程度の参加者募集を目指す。職員の人材育成について、特に専門分野の研修を強化し、組織として発達障害児者支援のスキルアップを図る。

本人（保護者、家族）・支援者・地域（市民）の三者が歩み寄ることは、発達障害のある本人たちの安心や安定した生活のために不可欠であり、自閉症／発達障害児者一人ひとりが自分らしく生きることができる社会づくりに貢献するものと考え。地域における発達障害に関する相談件数や、本法人に寄せられる相談問合せ件数も絶えないことから、本事業で得られた成果を基に、今後も地域社会の課題解決に取り組みたいと考える。